第５学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　５年１組教室　指導者　竹尾　紗菜

１　主題名　　親切な思い（B親切、思いやり）

（教材名：くずれ落ちただんボール箱　出典：生きる力５【日本文教出版】）

２　目　標

親切、思いやりは、相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のためを思い自分にできることをしようとする心から生まれることに気付き、思いやりの心で親切にしようとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「親切、思いやり」とは、相手の気持ちや立場を考え、相手のためになることを進んで行おうとする心である。しかし、親切な行動は、必ずしも相手に感謝されたり、周囲に理解されたりするとは限らない。そのようなときにも、相手のことを第一に考え、自分の気持ちや都合だけでなく、相手の気持ちや立場を大切にしながら行動することが真の思いやりにつながる。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、明るく元気な児童が多く、休み時間や学校行事などでも友達と積極的に関わろうとする姿が見られる。また、困っている友達に声を掛けたり、係活動や当番活動に進んで取り組んだりするなど、思いやりのある行動も多く見られる。一方で、相手の気持ちや考えを思って親切にしたにもかかわらず、「ありがとうと言ってもらいたい」とか「せっかくしてあげたのに」などと、自分の考えで行動してしまう姿も見られる。そこで、本教材を通して、親切とは、相手に認められたい心ではなく、困っている相手の気持ちや立場を考え、本当に相手のためを一心に考えて行動することであることに気付くことで、これからの生活の中でも、自分のことだけでなく相手のことを大切にしながら、思いやりのある行動をしようとする態度を育てたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材は、「親切にしたのに怒られてしまう」という、子どもたちにとって意外性のある出来事が描かれている。そのため、「自分だったらどうするだろう」と主人公の立場に立って考えやすく、教材の内容に引き込まれやすい。
・主人公たちは、困っているおばあさんを助けたいという思いから行動したにもかかわらず、店員から誤解されて注意されてしまう。そこで、「なぜ主人公は怒られたことをおばあさんに伝えなかったのか」を考えることを通して、自分の気持ちよりも相手の気持ちや立場を大切にする思いやりについて考えることができる。

〈こんな手だてで〉

・店員に注意された場面で、主人公たちの悔しさや納得できない気持ちに十分共感させることで、「自分だったらどうするだろう」と主人公の葛藤を自分のこととしてとして考えられるようにする。
・「怒られたことをおばあさんに話せば自分の気持ちは楽になるのに、なぜ話さなかったのか」を中心に考えることで、自分の気持ちよりも相手の気持ちや立場を大切にした主人公の思いやりに気付き、本当に相手のためになる親切について考えを深められるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・相手の気持ちや立場を考えながら、本当に相手のためになることは何かを考え、進んで思いやりのある行動をしようとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず、「助けた時に悪く言われたら、どんな気持ちになりますか」という問いを通して、親切にしたのに嫌な思いをした経験や考えを引き出す。そこで、「本当に相手のためになる親切とはどんなことだろう」という課題意識をもつことができるようにし、教材への興味・関心を高めたい。

展開では、おばあさんを助けた二人の行動に着目し、「困っている人の力になりたい」という親切な思いから行動したことを押さえる。また、店員から注意された場面では、親切にしたのに誤解され、悔しさや納得できない気持ちになった二人の心情に共感できるようにしたい。そのために、中心発問では、「『わたし』は店員に怒られたことをおばあさんに伝えなかったのはどんな思いからか」について考える。ここでは、自分たちはお礼を言ってもらいたいから親切にしたのではなく、自分の気持ちよりもおばあさんの気持ちや立場を大切にした主人公の思いに気付けるようにしたい。そして「めあて」に戻り、本当の親切とは、相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のためを思い自分にできることをしようとする心から生まれることについて考えを深めたい。

終末では、今日学んだことを振り返り、今後の生活に生かそうとする意欲を高めたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　親切について考える。（3）	困っている人を助けたのに悪く思われたらどんな気持ちになりますか			
	・悲しい。 ・嫌だ。	・せっかく助けたのに嫌な気持ち。	・よいことをしたつもりだったけれど分かってもらえなくて悲しい。	※「悲しい」「悔しい」「納得できない」などの発言を引き出し、助けたのに認められない理不尽さを感じ取りやすくする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　本当に相手のためになる親切とはどんなことだろう			
	・困っている人を助けること。	・相手が困っているときに、自分から声をかけて助けること。	・その場だけでなく、相手の将来や成長も考えて行動すること。	※めあてに対する授業前後の考えを比較させながら、本当に相手のためになる親切について振り返らせ、相手に認めてもらうことよりも、一心に相手を思って行動することの大切さに気付けるようにする。
3　ふたりの思いを考える。（5）	二人はどんな気持ちからおばあさんを助けることにしたのでしょう			
	・かわいそうだったから。 ・困っていたから。 ・助けた方がいいと思ったから。	・おばあさんが困っていたから。 ・段ボールがたくさん落ちていて大変そうだったから。	・おばあさんが困っているのを見て、『自分だったら助けてほしいな』と考えて、おばあさんの立場になって行動したから。	※「困っていたから」「かわいそうだったから」などの表面的な意見を受け止めながら、「何に困っていたのか」「どんな様子を見てそう思ったのか」と問い返し、二人の心情を具体的に考えられるようにする。
4　注意されてしまったふたりの気持ちを考える。（7）	「困った子たちね。」と店員さんに注意された二人は、どんなことを考えていたのでしょう			
	・嫌だった。 ・悲しかった。 ・怒られて嫌だなと思った。	・何も悪いことをしていないのに怒られて納得できなかった。	・おばあさんを助けようと思ってしたことなのに、事情を知らないで怒られて悲しかった。	※親切な行動が誤解された状況を押さえ、二人の悔しさや納得できない気持ちに共感できるようにする。 ※二人の気持ちに十分寄り添わせることで、中心発問での葛藤をより深く考えられるようにする。
5　相手を思いやる「わたし」の気持ちを考える。（２０）	注意されたことを戻ってきたおばあさんに伝えなかったのは『わたし』のどんな思いからでしょう			
	・言わない方がいいと思ったから。 ・おばあさんがかわいそうだから。 ・心配させたくなかったから。 ・お礼を言ってくれたから。	・おばあさんに心配をかけたくなかったから。 ・怒られたことを聞いたら、おばあさんが悲しい気持ちになると思ったから。	・本当は怒られたことを話したい気持ちもあったと思うけど、おばあさんに言ったら、『自分のせいで怒られてしまった。』と申し訳ない気持ちになると思ったから。自分が嫌な思いをしても、おばあさんにはそんな気持ちになってほしくなかった。	※自分の気持ちよりも相手を大切にした主人公の心情を捉えさせ、本当の親切について考えを深められるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「自分の気持ちよりも、おばあさんの気持ちを大切にした」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「『わたし』が一番大事にしようとしていたのはどんな思いだろうか」
6　本当に相手のためになる親切について考える。（4）	本当に相手のためになる親切とはどんなことだろう			
	・困っている人を助けることだと思った。 ・やさしい気持ちで相手に接することだと思った。	・相手の気持ちを考えながら助けることが、本当に相手のためになる親切だと思った。	・相手から感謝されたり認められたりすることを求めずに、その人のためになることを考えて行動することだと思った。	※物語の内容をまとめるだけでなく、主人公の気持ちの変化を振り返らせながら、感謝や見返りを求めるのではなく、一心に相手のことを思って行動することの大切さに気付けるよう支援する。
7　振り返り（5）	今日の授業で新しく学んだことを振り返ろう			
	・困っている人がいたら助けたいと思った	・親切はただ助けるだけでなく、相手の気持ちを考えることだと分かった。	・本当に相手のためになる親切とは、自分の気持ちよりも相手の気持ちや立場を考えて行動することだと分かった。	※主人公の思いを振り返らせながら、親切や思いやりは相手に認めてもらいたい心ではなく、一心に相手のためを思い自分にできることをしようとする心から生まれることに気付けるようにする。

（4）評　価

・相手の気持ちや立場を考えながら、本当の親切とは認めてもらいたいからではなく、一心に相手のことを思ってしていることなどについてを考え、思いやりのある行動をしようとする実践意欲を高められたか。

（発言・ワークシート）

第５学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　５年２組教室　指導者　田中　宏明

１　主題名　　家族の一員として（C家族愛、家庭生活の充実）
（教材名：家族のために　出典：生きる力５【日本文教出版】）

２　目　標

家族は家族みんなの幸せについて考え、家事を分担するなど協力して家族生活が成り立っていることを理解し、家族のために自ら進んでできることに取り組み、役立とうとする意欲を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「よりよい家庭」は、家族が相互に信頼関係で結ばれ、互いの立場を理解して尊重し合い、家族みんなで楽しく充実した生活を送ろうとする家庭のことである。家族みんなの幸せを考えながら、仕事や家事を分担するなど互いに支え合うことによって家庭生活が営まれていることを理解し、自分にも家族の一員としての役割があることを理解できるようにしたい。家族への感謝と愛情を深めることで、家族の幸せのために自分にできることに前向きに取り組み、家族の支え合いに進んで関わっていこうとする心情と思いが「家族愛」につながっていくことを感じることができるようにする。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、休日に出かけた時のことを楽しそうに話すなど、日々の生活の中で家族の存在を大切に感じている児童が多い。一方でそのような気持ちを感じつつも家族に対する依存性が高く、自分の世話等をしてもらうことを当たり前のように感じ、自分から進んで家の手伝いをしたり家族のために役立ったりすることのよさに気付いていない面もある。この教材を通して、家族に対して「感謝」の思いを育むとともに、家族それぞれに思いや事情があり、一人一人が協力することによって家庭生活が成り立っていることに気付くきっかけにしたい。家族それぞれの立場に立って家族の思いや願いを考え、自分にできることを行動に移して家族の役に立とうという思いをもつことができるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材は自分の分担だけに取り組むアキと家族のことを考えて家事に取り組む両親との違いに気付くことで、家族の在り方や自身の役割について考えを深め、家族の一員として自分にもできることがあるのではないかと考えるきっかけにすることができる教材である。
・遠足の後取り込んだ洗濯物を丁寧にたたんだり、弁当箱を自ら洗ったりするアキの姿から、自分にも家族の思いを考え、自分にできることや負担を減らすことができることに気付くことができる。家族の一員としてどのように生活するか考える活動を大切にしたい。

〈こんな手だてで〉

・見えないところで活動している家族の存在に気付く前と気付いた後のアキを比べ変容を追いかける。家族のことやその思いを考えて活動することの大切さに気付いたアキの思いを取り上げることで、アキの家族に対する愛情と感謝の思いの高まりを感じ取ることができるようにする。
・展開後段で「言われてからやる」と「自分からやる」にはどんな違いがあるか考えることで、教材から児童の実生活へつなげる。今までの自分を振り返ることで、これから家族のためにどうしていきたいか考え、思いを深めることができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・「言われたからやる」から「自分からやる」ためには、どんな気持ちが大切か考えたり、家族のことを考えたりして自分にできることに進んで取り組もうとする意欲を高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず「家族のために取り組んでいることはありますか」というアンケート結果を提示する。ここでは、それぞれが家庭の中で役割があることに気付かせるとともに、自身の役割に「どんな気持ちで取り組んでいるか」と問いかけ、児童のそれぞれの役割に対する正直な思いを語らせ、教材への動機づけを行う。

展開では、主人公アキの自身の役割に対する後ろ向きな思いや、家族に対して不満を募らせている様子を児童に共感させる。その後、アキが自分の知らなかったところで家族が家事をしていたことに気付いたときの思いについて考えることで、アキの視野の広がりを感じ取ることができるようにする。中心発問ではアキが自ら役割を見つけ取り組んでいる姿に焦点をあて、自身の役割に対して前向きな気持ちが出てきたアキの思いをみんなで考え合う。

その際、最初のアキと今のアキを、「言われてからやること」と「自分からやること」の違いで比べ、家族に対する感謝の思いや愛情の深まりを感じて「自分も家族の一員」という思いのもとに家の手伝いを始めたアキについて考えさせたい。　その後、導入で提示しためあてに戻り、家族は家族みんなの幸せについて考え、家事を分担するなど協力して家族生活が成り立っていることを確認し合い、導入での考えと比べて自分たちの学びを確認し合う。児童の言葉でまとめを行う。

終末では、本時の学習を振り返ることで、家族のために自ら進んでできることに取り組み、役立とうとする意欲を高めていきたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、タブレット端末

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　お手伝いに取り組んでいる時の気持ちを振り返る。（3）	家族のために取り組んでいることはありますか			
	・みんな結構お手伝いしているんだな。	・いやいややっている人もけっこういるんだね。	・やらなきゃいけないってことは分かっているんだけど。	※タブレット端末で集約し提示することで、アンケートの内容を捉えやすくする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　「家族の一員」として、どんな思いで生活すればよいかな			
	・自分が暇だったら家族を手伝おうかな。	・やってと言われたら手伝うようにする。	・言われずにできた方がいいんだろうけど、難しい。	
3　洗濯物を取り込んでいるアキの気持ちを考える。（6）	アキはどんな気持ちで洗濯物を取り入れているかな			
	・怒っている。 ・雨も降ってきたしめんどうくさいな。	・いやいややっている感じだと思う。 ・本当はやりたくないのに。	・私ばっかり大変で、お父さんやお母さんは何もしなくてよくていいな。	※アキの状況を整理することで、アキが家族に対する不満を募らせていることを意識できるようにする。
4　アキのために活動している父と母を見た時の気持ちを考える。（6）	アキはお父さんやお母さんの姿を見てどんなことに気付いたのかな			
	・朝早くから家事をしていて大変そうだな。	・私が気付いてないだけで、いろいろやってもらっていたんだ。	・私は自分のことしかやってないけれど、お父さんやお母さんは家族のことをやっていたんだ。	※家族のために気付かないところでも家事をする父母と前日のアキの様子を比較することで、家族のためにという思いがアキになかったことに気付くようにする。
5　自ら弁当箱を洗うアキの気持ちを考える。（20）	弁当箱を洗っているアキは、どんなことを考えているのかな			
	・自分で弁当箱を洗ったから、お母さん褒めてくれるかな。 ・言われてからやるよりも、自分からできた方がいいと思う。 ・自分で手伝いできた方がいいんだな。	・私のために作ってもらったから、お父さんやお母さんのために自分で洗おう。 ・言われてからだとやるぞって気持ちにならないけれど、自分からならやるぞって気持ちになる。	・私も自分にできることを考えてやって、私も家族の役に立ってみたいな。 ・自分からやるということは、家族のことを考えているからできると思うな。 ・考えてみると言われてからしか手伝いとかしてないかも。	※洗濯物を取り込んでいるアキと弁当箱を洗っているアキを対比することで、アキの心情の変化を視覚でも捉えることができるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「自分からやることに意味がある」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「『言われてからやる』ことと『自分からやる』ことは何が違うのかな」 ※アキの自分から動き出した場面の心情を取り上げることで、日常生活とつなげて思考を深めることができるようにする。
6　めあてに戻って考える。（4）	「家族の一員」として、どんな思いで生活すればよいかな			
	・何かできることがないか聴くようにしようかな。	・お父さんやお母さんを助けていくようにしたい。	・やってもらうことは多いけど、家族にできることがないか探したい。	※めあてで考えたことに戻ることで、深まりを意識することができるようにする。
7　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく気付いたこと、学んだことを振り返りましょう			
	・お手伝いをちゃんとやろうと思う。	・自分にできることだけじゃなくて、他にもできることを探してみよう。	・家族の役に立てるように、これからは自分にできることがないか考えて生活したい。	※「家族の一員」について、この時間に学んだことを自分の言葉でまとめる。

（4）評　価

・家族はみんなの幸せを考え、家事を分担し協力して家庭生活を維持していることなどについて考え、家族の幸せのために進んで役立とうという思いを表現しようとしているか。　（発言・道徳ノート）

第６学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　６年１組教室　指導者　神田　俊介

１　主題名　　れいぎ正しさ（B礼儀）

（教材名：人間をつくる道―剣道―　出典：生きる力６【日本文教出版】）

２　目　標

形だけではなく、相手を大切に思う心が伴ってこそ人間としての「礼儀正しい振る舞い」になることに気付き、礼儀正しく真心をもって相手に接しようとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「礼儀正しさ」とは時と場をわきまえながら、真心をもって接したり、相手を思いやる敬意を表したりしようとする心である。しかし、現代の日本では、心が伴わない形式的な礼儀である「虚礼」となってしまう場が増加していたり、社会情勢の変化とともに、礼儀のＴＰＯも少しずつ変化したりしている。新型コロナウイルスのまん延やＳＮＳの普及などを経て、対面でのコミュニケーション能力向上や礼節への意識が高まりづらい社会風潮になりつつある。しかし、人間関係は一人では成立しない。相手に対する敬意をもって心を開き、人間関係をつないでいこうとするうえで、礼儀は必要不可欠である。互いに警戒心を解き、一人の人間として大切に思い、接していこうとするためには形だけではなく、心が伴ってこそ、互いが気持ちのよい、人間としての「礼儀正しい振る舞い」になることに気付き、礼儀正しく真心をもって接しようとする態度が必要であることについて考えるようにしたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、男女の仲もよく、休み時間には運動場へ駆け出して遊んだり、教室でカードゲームや談笑をしたりする姿が見られる。また、初対面の相手に対しても人見知りせず、気さくに話しかける姿も多くみられる。しかし、時に、相手の立場や年齢、状況などを踏まえず、他人から見られる自分の態度や言葉遣いを意識せずに行動することもあり、相手に対して失礼となってしまうことがある。この教材を通して、相手のことを大切に思うが故に、それをどのように表していくかを考え、心と形の両方が伴ってこそ、相手を尊重し、真心のこもった礼儀となることを理解できるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材では、日本に古くから伝わる「武道」をテーマに、技術だけではなく、礼儀・作法を学ぶことを重んじている登場人物の姿から、「誰に対しての礼儀なのか」や、「どのような意味が込められているのか」などについて考えることができる。
・試合後にふてくされた態度で試合から引き上げる主人公の姿から、どうして形だけの礼儀ではいけないのかを考えさせたい。また、「礼儀を尽くす」ことは相手あっての考えであり、相手を一人の人間として受け止め、大切に接しようとすることの大切さを考えることができる。

〈こんな手だてで〉

・剣道において、試合の勝ち負け以上に大切な礼儀のわけ礼儀は相手を尊重し、全力で試合ができたことに感謝する現れであり、しかも心と形が伴ってこそ、相手にも周りにも伝わることを話し合い、相手と接するときの礼儀の大切さに気付くことができるようにする。
・「人間をつくる道」について考える主人公の姿を踏まえて考えることで、相手を敬い、尊敬する心が大切であることに気付かせ、大人の試合から感じられたすがすがしさは、礼儀正しい振る舞いによって与えられたものであると気付くことができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・接する相手や、時と場をわきまえて、適切な言動をとり、礼儀正しく真心のこもった行動を進んでとろうとする意欲を高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず、導入で「礼儀正しさ」について問う。ここでは、丁寧な言葉遣いや動作などが「礼儀正しいこと」であり、展開部分で、そのような言動を取りたいという思いはどこからくるのかを考える動機づけとする。その後、教材を読み、登場人物や物語の内容などを把握できたら、めあてを提示する。

展開部分では、厳しい練習に耐え、やっとの思いで迎えた試合に勝てず、先生から厳しい言葉を掛けられた「ぼく」の様子から、「剣道の腕前」と直接関係していない礼儀をなぜここまで重んじているのかについて考えていく。その際、「ぼく」と「大人」の試合の様子を比較しながら考えることで、礼儀が自分の目の前にいる相手を「認め、受け入れ、大切にしたい」という思いの表れであり、勝ち負け以上に大切にされている、尊重しなくてはならない考えであることに気付けるようにしたい。中心発問では、「人間をつくる道」という言葉を聴いた「ぼく」の思いについて考え、話し合う。形だけ、見せかけだけの「虚礼」ではなく、「相手のことを思い、大切にしたい」という自分の気持ちの表れこそが礼儀であることを対話の中で押さえていく。その後、本時での学びを振り返り、言葉遣いや行動など、「形」ばかりの礼儀を考えていた導入段階から、授業を通して、「相手を思う気持ち」の表れこそが礼儀であり、形ばかりの「虚礼」では意味がないと、児童の思いが広まり、深まったことを感じられるようにする。

終末では今日学んだことを振り返り、今後の生活に生かそうとする意欲を高めたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、プロジェクター、スクリーン、タブレット端末

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　「礼儀正しさ」について考える。（3）	「礼儀正しい」とは、どのようなことなのだろう			
	・挨拶がしっかりできること。 ・返事が大きな声で言えること。	・相手を見て反応ができること。 ・自分から丁寧な行動ができること。	・いろんな場面で、そこに合った行動ができたり、相手を気遣ったりできること。	※児童の身の回りや具体的な場面を想起できる問い掛けをすることで、場面によって接し方を変えていることに気付くようにする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　形だけではない「礼ぎ」とは、どのようなことなのだろう			
	・どんなときも変わらずにできる礼儀。	・どんな相手でも丁寧に接することができる。	・時と場合関係なく、相手のことを考えた発言や行動ができること。	
3　教材文を読む。（4） 4　「礼」に対する主人公の思いを考える。（4）	厳しい稽古の中、「ぼく」は礼に対してどのように思っていたのだろう			
	・どうしてこんなことをしないといけないのだろう。	・関係ない事だけど、先生に怒られたくないからやらないと。	・礼をすることが大切なのは分かるけど、どうしてここが一番大事なのかな。	※剣道への憧れが強く、礼に対しては消極的な主人公の感情に着目すろことで、礼をすることが必要な理由について考えられるようにする。
5　大人の試合を見た後の「ぼく」の気持ちの変化について考える。（8）	大人の試合の様子を見て、「ぼく」はどのような気持ちになったのだろう			
	・大人の試合はすごいな。 ・しっかり試合後の挨拶ができていてかっこいい。	・負けて悔しいはずなのに、どうしてあんなにりっぱな様子なのだろう。	・先生はこれを伝えたかったのかな。自分の行動は恥ずかしいものだったんだ。	※「ぼく」の感情から表出された行動が、その場に適していないことを全体に投げかけ、「礼儀正しくすること」が何なのかについて考える足掛かりをつくる。 ※「ぼく」に欠けている礼儀に気付くために、「ぼく」と大人の試合の後の様子を板書で比較する。
6　「礼」に対する「ぼく」の新たな考え方について聴き合いながら考える。（15）	「人間をつくる道…か」と言う「ぼく」はどんなことに気付き始めていたのだろう			
	・負けたときに、「自分が悔しい」ことしか考えていなかった。 ・いつか剣道の腕前だけじゃなく、挨拶などの礼儀もしっかりできるようになりたい。 ・相手のことをよく考えて行動していかないといけない。	・剣道を強くなっていくためには、まずは自分の弱い心と向き合っていかないといけない。 ・礼をすることは相手に自分の思いや気持ちを伝えるための行動なのかもしれない。 ・礼儀ができていないことは、人として恥ずかしいことだ。	・剣道で一人前になるためには、技術を磨くだけではなく、人としての心構えや、周りの人への感謝や尊敬の気持ちをもたないといけないのかな。 ・相手を大切にしている」という思いが伝わるような礼儀ある行動をしないといけないんだ。 ・見た目だけの礼だけでは意味がない。中身を大切にしたい。	※教師が「みんなから礼儀正しく見えるような振る舞いを続けていればいいってこと？」と問いかけ、形だけの「虚礼」では意味がなく、常に相手を意識した「礼儀正しさ」を表していくことが大切であることに気付けるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「人として恥ずかしい」 「相手のこと」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「礼を丁寧にすることには、どんな思いが込められているのだろうか」 「みんなから礼儀正しく見えるような振る舞いができればいいのかな」
7　めあてに戻って考える。（5）	形だけではない「礼ぎ」とは、どのようなことなのだろう			
	・相手のことを考えた態度をとることが大切なんだ。	・相手や場面で変わることのない思いやりの心だと思う。	・相手への真心をもって、丁寧な言葉や行動をしようとすること。	
8　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・礼儀を大切にすると自分も相手もいい気持ちで生活できる。	・相手のことを思うと、自然と礼儀を大切にしようと思えるようになると思う。	・「相手のことを大切にしている」という思いが伝わるような礼儀ある行動をしていきたい。	※書くことに悩んでいる児童に対しては、板書の内容やキーワードとなる言葉を確認するように声掛けする。

（4）評　価

・相手を敬い、形だけではなく、心が伴った礼儀ある行動を実践し、継続しようという思いを表現しようとしているか。　（発言・ノート）

第６学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　６年２組教室　指導者　伊藤　美保

１　主題名　　家族の幸せ（C家族愛、家庭生活の充実）

（教材名：初めてのアンカー　出典：生きる力６【日本文教出版】）

２　目　標

家族が子どもの幸せを強く願ってくれていることを当然とせず、自分も家族の幸せを願うことが家族の一員として大切であることを理解し、家族の幸せを考えていこうとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

家庭は、生活を共にする家族によって営まれる最も小さな社会集団である。家庭の中には家族が存在し、家族は最も身近な人間関係の基盤であり、児童の人格形成の基盤となる。家庭での生活は、児童に大きな影響力を与える。そして、自分の成長は、家族の願いや愛情、努力によるものであると言える。そこには利害や損得は存在せず、見返りを求めない家族からの無償の愛が存在する。

私たちが、日々の生活を何気なく送ることができるのは、家族からの愛情や支えによって、家族が幸せでいられるからである。しかし私たちは、家族一人一人の思いや幸せにまで思いをもつことはなかなか容易ではない。

そこで、家族がそれぞれに思いがあり、互いが家族を大切に思う気持ちがあってこそ、家族が幸せでいることできることに気付き、支え合う家族の一員として自分にできることを考えられるようにしたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の子どもたちは、授業参観や行事等に保護者が来てくれることを喜び、励みに張り切って授業に臨む姿が見られる。一方、授業参観の後には、「別に来なくてもよかった」などと言う言葉も聞かれ、保護者が来てくれることを当たり前だと感じている児童が見られる。その他にも、塾や習い事の送迎をしてもらうことを当たり前に思い、家族の思いを考えようとしていない児童も見られる。そして、自分のことを思ってくれていることや支えていてくれることを当たり前に思っている児童が多い。本教材を通して、家族一人一人の立場に立って家族の思いや願いを考え、家族に対して自分ができることを行動しようという思いを深めていけるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【1時間完了】

・本教材は、運動会で初めてアンカーに選ばれたまきと、漁師である父との関わりを通して、家族の愛情や支えについて考えることのできる教材である。
・父に応援してもらいたいという自分の願いと、家族のために働く父の願いとの違いに気付くことで、家族一人一人の立場や思いについて考えることができる。
・まきが父の思いを理解し、自分の考えを見つめ直していく姿から、家族の一員として自分にできることは何かを考えることができる。

〈こんな手だてで〉

・運動会で初めてアンカーに選ばれ、父に見てもらいたいと強く願うまきの気持ちに共感することで、家族に認めてもらいたいという思いを捉えることができるようにする。
・父が運動会に来られない理由を知り、家族のために働き続ける父の思い、姿について考えることで、自分は自分の思いしか考えていなかったことに気付くことができる。
・まきの父に対する思いの変容を通して、家族の幸せは誰か一人がつくるものではなく、家族一人一人が相手を思いやり、自分の役割を果たすことで生まれるものであることを考えることができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・家族にしてもらうことは当たり前ではないと気付き、感謝の気持ちをもとうとする意欲を高める。
・家族には家族一人一人の役割や思いがあり、家族の思いを想像することを通して、自分自身が家族の一員としてできることをすることが家族の幸せにつながると気付き、自分自身を振り返っている。

４　本時の指導

（1）指導の構想

指導に当たっては、導入で家族の幸せと聞いてどんな様子を思い浮かべるかを問う。家族の幸せである状態を共有する。その幸せは、誰がどうつくるのかという本時のねらいへの動機づけとしたい。

展開では、初めてアンカーに選ばれ、父に自分の活躍を見てもらいたいと願うが、その願いはかなわず、父が運動会に来られないことを知ったまきの気持ちを考え、自分の思いだけに目が向いていることを押さえる。

中心発問では、「お父さん、待って―。」と父を追いかけるまきの思いについて考え、話し合う。家族のことを思う父の気持ちに気付き、自分のことしか考えていなかったまきが、家族のために働く父への感謝や申し訳なさを感じるようになったことに迫りたい。そこから、家族の幸せは互いを思いやる気持ちによって支えられていることについて考えを深めていきたい。その後、導入で提示した「家族の幸せは誰がどうつくるのか」について改めて考える時間をとり、授業を通して、自分の考えの広がりや深まりを感じられるようにする。

（2）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　家族の幸せを考える。（3） 2　めあてを確認し、めあてに対する考えを共有する。（1）	家族の幸せと聞くとどんな様子を思い浮かべるかな			
	・家族みんなが元気なとき。 ・家族で出かけるとき。	・みんなで一緒にご飯を食べる。	・笑顔で過ごしているとき。	※笑顔、一緒に過ごすなどの言葉を板書する。 ※「幸せは自然にできるものかな」と投げかけ、教材につなげる。
	めあて　家族の幸せは誰がどうつくるのかな			
	・お金があれば幸せになる。	・お父さんやお母さんがつくる。	・家族みんなで協力してつくる。	
3　教材文を読む。（4） 4　父が来ることができないと分かったときのまきの気持ちを考える。（7）	涙が頬を伝って落ちていったときのまきはどんなことを思っているのだろう			
	・急に来られないなんて、ひどい。来るって言っていたのに。	・最後の運動会だったのに悲しい。	・アンカーで走る姿をお父さんに見せたかった。	※なぜ父に来てほしいと思っているのかを問い返し、選ばれてうれしい気持ちのまきを押さえる。 ※父に対する思いを問うことで、父が来られなくなってしまったことへの不満を共有する。
5　胸がチクリと痛んだまきが考えたことについて考える。（7）	祖母に、「ちがうの、これは、あしたの、、、」と答えかけて胸がチクリと痛んだまきはどんなことを考えただろう			
	・おばあちゃんの言うとおりかもしれない。	・自分のことしか考えていなかった。	・雨が降ると漁が大変になるとは全く考えていなかった。	※祖母の父に対する思いにも触れることで、祖母はまきのことも父のことも大切にしていることを押さえる。
6　父を追いかけたまきの思いを考える。（10）	「お父さん、待って―。」と追いかけたまきは何を考えていただろう			
	・お父さん、ごめんなさい。自分のことしか考えていなかった。お父さんのことも考える。	・お父さんは責任をもって働いている。 ・仕事に行くのは、自分たちのためだったんだ。 ・お父さんも悲しいはずだ。 ・お父さんだって、見に来たかったはずだ。	・自分は自分のことだけを考えるのではなく、自分も家族のことを考えなければいけない。 ・てるてるぼうずを渡して、お父さんが雨に降られず安全に漁に出られるようにしたい。	※ペアで互いの考えを聴き合い、自分の考えと比べることで、自分の考えに自信をもったり、新たに考えをもてたりできるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】「お父さんのことを考える」 【キーワードに対する切り返しの発問】「お父さんのことをどう考えていたのかな」 ※父のことをどう考えているかを問うことで、多様な意見に触れることができるようにする。
7　家族の幸せについて考える。（8）	家族の幸せは誰がどうつくるのかな			
	・いつもいつも何かをしてもらうばかりでは、家族みんなが幸せとは言えない。	・互いにどんな気持ちでいるかを想像することが大事で、家族の幸せはみんながつくるものだと思う。	・互いを分かろうとすることも家族の幸せにつながると思う。自分にできることを考えることもみんなの幸せにつながる。	※めあてに戻ることで、この1時間で「家族の幸せ」に対する考えが深まり、広がったことをみんなで確認できるようにする。
8　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく気付いたことや学んだことを振り返りましょう			
	・家族の幸せは、お父さんやお母さんがつくるものだと思っていたが、自分も家族の一員だから自分も幸せをつくる一人だと思った。	・自分は家族にしてもらうことが当たり前と思っていたが、家族にもそれぞれ思いや願いがあることが分かった。	・自分の家族の一員として、家族の思いを想像し、自分にできることを考え、やっていきたい。	※自分もまた家族の思いについて考えて、行動しようとする意欲を高める。

（4）評　価

・家族にしてもらうことを当然とせず、家族一人一人の思いの視点から、家族の幸せを自分との関わりで考えようとしているか。（発言・道徳ノート）